

施策評価シート（平成24年度の振り返り、総括）

作成日 平成25年 06月 27日

施策 No.	8	施策名	生涯学習の推進
主管課名	生涯学習課	電話番号	0285-82-7151
関係課名	文化課、スポーツ振興課、科学教育センター、福祉課、（社会福祉協議会）		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	26年度見込
人口	人				82,997	82,584	82,136	81,511	85,500

施策の意図	市民に学習機会を提供することにより、生涯にわたって学習テーマを持ち、学習してもらう。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習テーマを持って日頃学習に取り組んでいる市民の割合は、市民意向調査の集計結果</li> <li>・生涯学習に関する講座数及び参加延べ人数は、生涯学習課、図書館、文化課、スポーツ振興課、科学教育センター、社会福祉協議会で行った講座数の合計（生涯学習課は、出前講座が平成21年12月から開始したため市民講座数だけ計上。）</li> </ul>								
成果指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	26年度基本計画目標値
学習テーマを持って日頃学習に取り組んでいる市民の割合	%				24.8	26.4	24.5	25.6	35.0
生涯学習に関する講座数	講座				90	87	77	114	77
生涯学習に関する講座参加延べ人数	人				9,768	10,981	12,780	12,302	8,000

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	生涯学習は、市民が自主的に活動することが必要であり、主体は市民である。行政は講座などを通じて生涯学習のきっかけをつくり、自主活動団体としての活動を支援していくために、学習機会や学習の場の提供等、学習環境の整備を進めることが主な役割となる。
-------------------------	---

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（1）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

- ・市民意向調査では、学習テーマを持って日頃学習に取り組んでいる市民の割合は25.6%と、ほぼ横ばい状況である。
- ・生涯学習のさらなる推進を図るために、「出前講座」を平成21年12月から開始した。実施した講座数は、22年度が63講座、23年度が108講座、24年度が158講座と年々増加している。

（2）近隣他市との比較

- ・県内各市の生涯学習に関する講座数や参加者数については、講座の実施機関や実施方法等が様々であるため比較することは難しい。
- ・出前講座は、県内14市中真岡市を含めて12市で実施しているが、講座のメニューの数は297講座と、真岡市が県内で一番多い。実施回数が多い順から3番目で、参加人数は、多い順から5番目であり、高い位置にある。

3) 住民期待水準との比較

- ・今後のまちづくりに力を入れてほしい施策で「生涯学習の推進」の割合は、22年度が9.7%、23年度が7.5%、24年度が9.6%とほぼ同水準である。

24年度の  
評価結果

## 2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

- ・生涯学習の推進については、生涯学習課、図書館、文化課、スポーツ振興課、科学教育センター、社会福祉協議会で行っている市民講座数は114講座である。
- ・出前講座は、メニューの充実を図るため、24年度は297講座とした。
- ・市民講座の参加者の状況は、「英会話」・「初級韓国語」・古典「方丈記」を読む等の講座は、約7割が女性であるが、「中国語」講座は、約7割が男性である。料理関係の講座は、16講座開設し8割以上は、女性である。

また、中高年男性対象の簡単料理教室を1講座開設した。親子対象講座は、和太鼓、絵本づくり、凧づくり、親子料理教室等を開設した。

- ・出前講座の利用者は、女性が7割以上を占め、参加者の年代も30代から60代とさまざまである。家庭教育学級や女性学級で出前講座を利用する例が多いが、地域の女性団体が地域の公民館を会場として利用している例が増えている。
- ・市民意向調査で、学習内容は「スポーツ・レクリエーション活動」が31.6%と最も多く、次いで「芸術・歴史・文学等の文化活動」26.1%、「地域での交流活動」24.5%となっている。学習方法は、「個人的な学習」40.8%と「グループ・サークルでの活動」29.8%が多く、「公共機関が開催する教室・行事等」は18.4%となっている。学習活動に取り組む動機は、「趣味や教養を深める」が50.3%、「健康・体力づくり」が31.9%、「仲間づくり」が31.6%、などとなっている。
- ・真岡市立図書館においては、平成21年度から指定管理者制度を導入して開館時間の延長や祝日の開館、貸出冊数の無制限化などのサービス向上を行っている。平成24年度の利用者数5万6,845人で、貸出し冊数は、20万8,837冊であった。なお、特色ある取り組みとして、乳幼児から小学生までを対象とした「読み聞かせ事業」や外国人講師による「英語のおはなし会」の開催、季節に合わせた特設展示コーナーを月替わりで、設置し、今話題の新刊本や季節に関連した本の紹介などを行っている。平成24年度は、子ども読書週間にブックラリーを開催し、5冊の感想文を書き、賞状と金メダルを贈呈するなど、読書活動の推進や団塊世代向け「大人の映写会」等の新たな事業を実施した。また、平成24年度の真岡西分館図書室の利用者数2,560人で、貸出し冊数は、1万1,528冊であり、二宮分館図書室の利用者9,406人で、貸出し冊数は、4万1,056冊であった。
- ・平成22年3月に「真岡市生涯学習推進基本構想・基本計画」を策定し、進行管理を行っている。

24年度の  
評価結果

### 3. 施策の課題認識と改革改善の方向

- ・生涯学習のきっかけづくりとしての市民講座については、市民のニーズを把握しながら、より多くの講座を開設して参加者を増やしていく。
- ・市民講座の受講者には、講座終了後には定例使用団体(市公民館：62団体、西分館：37団体、山前分館：21団体、大内分館：14団体、中村分館：18団体、二宮分館：36団体、合計：188団体)となって、自立して活動していく方向で、今後も指導を図っていく。
- ・出前講座のメニュー拡大と各団体、事業所等への周知の強化を図る。
- ・二宮コミュニティセンターを市民のふれあいの場としていく。特に二宮分館の会議室・調理室・図書室・ギャラリーを活用した事業を積極的に展開していく。

24年度の  
評価結果

補足事項